

# 輸血・細胞治療センター

## 1. 概要

輸血・細胞治療センターは、院内の輸血療法が適切に運用されるよう管理している。センターの業務には輸血関連検査業務、血液製剤およびアルブミン製剤の管理業務、輸血療法委員会の開催、院内監査の実施等が挙げられる。2015年にはI&A施設認定を取得し、規約等の整備を行った。

本年は、手術室、救命救急センター等で使用する血液製剤の廃棄率削減のため、自記温度記録装置を搭載した血液製剤搬送装置を2台購入した。また、2018年1月に更新される電子カルテ、輸血部門システムでは、現行の内容の充実を図るとともに、超緊急時の輸血体制の強化、造血幹細胞等の処理およびその保存管理、血液製剤の分割に対応可能な運用管理業務等を加えた。

(センター長 杉浦 勇)

## 2. 活動報告

### (1) 定期委員会

輸血療法委員会開催 (2か月毎予定) \* 6回実施

### (2) センター業務実績

#### ①輸血関連検査件数

平成 28 年度	件数(件)
血液型	17,637
不規則抗体スクリーニング	13,329
交差適合試験	5,533

#### ②血液製剤使用状況

平成 28 年度	総単位数(単位)	前年比(%)
赤血球液 (RBC)	11,034	90
新鮮凍結血漿 (FFP)	3,782	84
濃厚血小板 (PC)	21,805	98

#### ③アルブミン (ALB) 製剤使用状況

平成 28 年度	総本数(本数)	前年比(%)
25% ALB	1,438	109
5% ALB	741	78

\*ALB 使用単位数：9,079 単位

\*ALB/RBC=0.82 管理料 | 算定基準：2 未満

\*FFP/RBC=0.30 管理料 | 算定基準：0.54 未満

④製剤廃棄率

平成 28 年度	廃棄率(%)	前年比(%)
赤血球液 (RBC)	45	0.75
新鮮凍結血漿 (FFP)	105	2.97
濃厚血小板 (PC)	32	0.53

⑤副作用集計報告

平成 28 年度	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球 (RBC)	94	67
新鮮凍結血漿 (FFP)	29	10
濃厚血小板 (PC)	187	81